

こんにちは、Bブロック 今立です。

日中活動の取り組みという事で、環境を整える上で重要となる「構造化」のいくつかの観点を交えながら、ある方の自立課題活動をご紹介しますと思います。

まず、大切な事は、「見た目にわかりやすく、自分で出来るように環境を整える」ことにあります。その為には色々な配慮が必要になってきます。

- ☆物理的構造化（刺激を抑えてエリアを明確にするため）
 - ☆視覚的構造化（見てすぐ何をしたらよいかをわかるようにする）
 - ☆スケジュール（何の活動を何処で行うのかをお知らせする）
 - ☆ワークシステム（何を？どのくらい？終わったら？次は何をするか？などをお知らせする）
- 等があげられ、これらの工夫や配慮を行いながら、環境を整えていく事が大切です。

実際の取り組み

☆物理的構造化



★背後の動きが気になる方なので背部にパーテーション利用しています。
★椅子を予め引いておき、すぐ活動に入れるよう配慮しています。

☆視覚的構造化



赤いテープの強調で、どこに置くのかをわかり易く。（視覚的明瞭化）

この方は、物の位置への拘りや、指示が1度入ってしまうと、その先の行動に確認が増えてしまうという特性をお持ちなので、出来るだけ介入無く自立して動いてほしいなという思いがありました。

☆スケジュール



活動シンボルでお知らせ！

課題は全て一体化の物を提供しています。（視覚的整理統合）

☆ワークシステム



★活動自体は目で見てわかり易い1工程。
★視野の狭さから、Q.U.Eの位置を課題のかごの中に設置すると、手に取り易くなりました。
★物の位置への拘りは、課題の置き場を予めお知らせする事で、確認無く済んでいます。



終了後の休憩の提示です。

実際のご本人の様子を見て改めて、不要な刺激の影響を受けやすい彼らにとって、ご本人の目線や動線の配慮が必要である事や、「視覚支援」は見通しなど本人の理解と安心を手助けするものだと再認識できました。

以上です。